

「福音紙芝居」子どもの伝道に活用

1932（昭和7）年、前年にアメリカ留学から帰国したキリスト者の今井よね（1897～1968年）は、街頭紙芝居に夢中になる子どもたちの様子を見て、これを伝道に活用できるのではと思いつく。そして誕生したのが、イエスや聖書に出てくる人物を描いた「福音紙芝居」である。

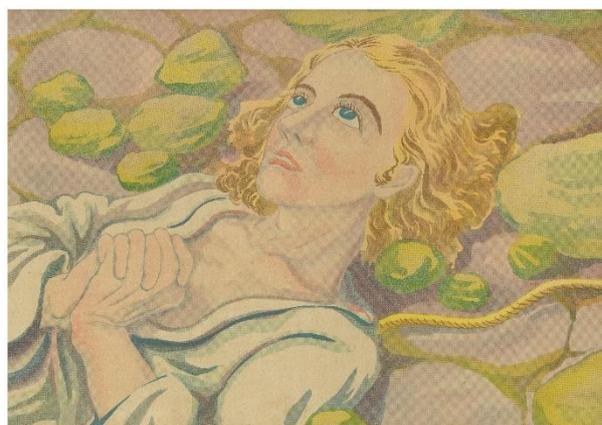
日曜学校で実演し、その効果を確認した今井は、翌年紙芝居刊行会を設立し「福音紙芝居」を印刷出版する。手書きの紙芝居をマスメディアに進化させたのである。

本学図書館では、同年から戦後にかけて発行された「福音紙芝居」24作品を所蔵している。

聖書の場面が淡々と描かれた作品も多い中、『ダマスコ途上のパウロ』では、クローズアップ、俯瞰（ふかん）などの映画的技法が紙面に変化を与えている。

子どもたちが楽しめるようにと、絵の描き方や効果的な演じ方をも研究した、今井の紙芝居への情熱が感じられる。

（初出「神奈川新聞」2012年8月13日付）



本学図書館貴重資料 『ダマスコ途上のパウロ』